

第2回 桑名市中心市街地活性化協議会準備会 議事概要

日 時：平成19年10月12日（金） 13時から15時

場 所：桑名商工会議所 会議室

議 題：①協議会規約（案）について
②協議会役員を選任について
③桑名市中心市街地活性化基本計画の策定状況について
④今後のスケジュールについて
⑤意見交換

参加者：23名、オブザーバー：12名、事務局：2名

【概要】

議事に先立ち桑名商工会議所 松平龍太郎副会頭より開会挨拶を行う。

松 平 本日の会議では中心市街地の活性化に繋がるべく、真剣な討議をお願いしたい。ご承知のとおり、中心市街地を取り巻く状況は厳しく、どの都市を訪れても駅前にはシャッター通りとなっている。しかし、最近では岐阜駅前の再開発についてニュースに取り上げられたり、長浜市の黒壁を主体にしたまちづくりなど、比較的近隣の都市においても参考になると思われる事例がある。こういった事例を観察し、吸収して頂きたいと考えている。桑名を愛する気持ちも大切にして、取り組みを進めて頂きたいと考えている。

続いて議題①「協議会規約（案）」について資料に基づき株式会社まちづくり桑名 大山曜アドバイザーより説明を行う。協議会の共同設置者は桑名商工会議所と株式会社まちづくり桑名が担い、名称は桑名市中心市街地活性化協議会とすること、公告は広報やホームページなどを利用して行い、メンバー募集も広く行うこと等を説明し、意見を求める。

参加者 協議会の会合の頻度や活動内容はどのようなものか。

大 山 本年度の主な活動は桑名市が作成している基本計画への意見表明が主な役割。また、来年以降も活動は継続される。協議会自体は主に連絡調整役を担うことになるが、目的、活動は幅広く規定している。活動の中核は個別プロジェクトになると思われ、プロジェクトの中心人物が協議会本部の運営委員として参画して頂く形を想定している。総会は年1回程度と思われるが、基本計画を国に提出する際には協議会として意見を述べることになるので臨時に集まって頂くこともあると思われる。

参加者 会費負担はどうなるのか。

大 山 協議会の会費について規定はあるが当面は無料の予定である。事務経費が膨大になり、運営に支障をきたすようであれば負担を求めることもあり得る。ただ、参画へのハードルは下げたいと考えているので支援措置などを活用して出来る限り無料で運営できるようにしたいと考えている。

続いて議題②「協議会役員の選任」について大山アドバイザーより説明を行い、意見を求める。

参加者 腹案を提案してはどうか。

事務局 会長は桑名商工会議所 松平副会頭、副会長は株式会社まちづくり桑名 伊藤新吾代表取締役および桑名商工会議所 吉田勝利常務理事という形を案として考えている。

参加者 異議なし。

大 山 会長、副会長については選任されたものとする。なお、運営委員、監査役については協議会発足までに会長、副会長と共に検討していきたいと考えている。運営委員については個別プロジェクトの中心人物に担って頂き、協議会への積極的な参画を呼びかけていきたいと考えている。事務局の設置については株式会社まちづくり桑名に設置する。

参加者 異議なし。

続いて議題③「桑名市中心市街地活性化基本計画の策定状況」について桑名市役所 担当者に説明を求める。

市 基本計画の策定状況、理念などについて説明を行う。桑名市役所としては策定委員会を組織して検討を重ねている。その概要については資料の通りである。旧計画の実施状況等を踏まえ、課題に対する基本方針、戦略目標を立て計画作りを進めている。なお、エリアについては旧計画と同じエリアを想定しているが今後予定している国との協議によっては変更する可能性もある。

参加者 中心市街地に居住者を増やすような計画となっているが、新しく市民になって頂く人が桑名に入りやすくなるような努力も必要である。また、市民に分かりやすい説明をしないと市民の心が離れていくことになる。三重県の北勢地域は一般的に好景気と言われているが消費者の動きを見ると、最寄り品は桑名で購入しても高級品は名古屋で購入していることが多い。市としても広く市民に桑名で買い物をして頂く仕掛け作りが必要ではないか。また、県外から来桑される方に当地の開発などについて思わぬ質問を受けることがあるが、意外と周知されていない案件も多く、地元住民でありながら返答できない場合がある。安心して過ごせる町にするためにも、桑名市においてどこで、どういった話が進んでいるか周知して頂きたいと考えている。

大 山 桑名市役所 担当者に説明を求める。

市 桑名市内の開発状況について説明する。九華公園に関する整備計画については現在策定中であり、今後、詳細を詰めた上で公表して行きたいと考えている。末広駐車場の整備計画についても今般の議会で承認されたことから計画の詳細について広報して行きたいと考えている。

参加者 歩いて暮らせるまちづくりという理念を実現させるためには、車社会からの脱却について何らかの記述をすべきではないか。

中経局 国としては地域の判断によって様々な記述の仕方があると考えているが、車社会からの脱却については一概に言えるものでは無いと考えている。歩いて暮らせるといった理念のために車をシャットアウトするといった構想等についてはその地域が現状を把握した上で判断することと捉えている。

参加者 桑名駅東西自由通路について自転車等の二輪車両は通ることが出来ないのか。鉄道事業者側が難色を示しているようでもあるが理由を伺いたいと考えている。また、通路の幅は8mと伺っているが折角作るのだから広いものを作って交流に繋がる様にした方が良いのではないか。

参加者 駅東地域の関係者としても自由通路の利便性向上について、今後も申し入れを行いたいと考えている。

市 自由通路と駅舎を連動した改修が予定されており自由通路には鉄道を利用の乗客が多数通行することが見込まれている。安全面からも自由通路には自転車は通さないというのが鉄道事業者の基本方針と伺っている。他都市の例を見ると自由通路に自転車等が通れる場所もあるが、近くに踏み切りが無い等、何らかの理由がある場合のみ通行を許可しているようである。鉄道事業者に対して再三申し入れを行っているが難しいものがあるが継続して要請していく所存である。

大 山 その他、中活関連でオブザーバーからの情報提供を求める。

中経局 認定窓口は国の中心市街地活性化本部があたっており、当方にて直接判断する物ではないが、本日提供の資料を見た範囲でのコメントをしたい。まず、中心市街地活性化のシナリオについて、どのような街にしたいのかを明確にする必要があると思われる他、街づくりをストーリーとして説明できるようにする必要があると思われる。桑名市の特徴や優れていると思われる点についても説明の中に入れる必要があると思われる。また、範囲についてはその範囲の中で5年間でどこまで活性化していくかストーリーが必要である。民間事業者などが提案する事業も取り入れていく必要がある。幅広い意見を聞いて自分たちがどこまでできるか考えて計画を策定して頂きたいと考えている。

三重県 来年度の予算要求については例年通りの予定である。国が大規模な支援策を準備しており、三重県としてはそのような大規模な物に当てはまらない中小規模の事業に対して支援を行って行きたいと考えている。なお、県内の協議会設立状況であるが、伊賀市は法定の協議会を設立済みであり、松阪市では検討会が開催されている。桑名市の進行状況は、両者の間に位置していると思われる。

中小機構 専門家の派遣事業等の支援を行っている。昨年実施した実効性確保診断事業の規模を絞ったイメージの事業について、年度途中に一部変更を行い、継続的な支援が実施できるようになった。こちらについても情報提供を行うので関心があれば問い合わせたいと考えている。

(意見交換)

参加者 一番街商店街では現在、今後についての勉強会を実施している。その中では老朽化した店舗についての課題が出ているが、建て替え等についての問題提起を基本計画に書いて頂くことは可能なのか。駅前の街づくりという観点からも何らかの記述は載せて頂きたいと考えている。

市 基本計画についてはその実効性や効果など具体的に書く必要がある。また、5年以内に実行する事業を載せるという方針であるので、その期間内に出来る、結果を出せるという物であれば載せることは可能である。

大 山 一番街商店街については事業性の具体性や資金計画等を検討する必要があると思われる。また、単発事業として見るのではなく中心市街地全体を見た中での位置付けや整備

方向を考えていく必要性もあるのではないかとと思われる。今回策定の基本計画が基本計画たるには中心市街地がどういった方向を目指すのかといった観点で考えることも重要である。

市 今までの検討委員会の中で公共事業については内容がほぼ固まりつつある。しかしながら、民間事業については少ない状況である。商業者自身も事業、商売の価値を高める努力について充分議論をして頂き、基本計画にも反映させて行きたいと考える。今後は法改正のため郊外への商業施設の立地ができなくなるが、その状況の中でどうしていくか議論を頂く必要があると考えている。

続いて議題④「今後のスケジュール」について大山アドバイザーより説明を行い、引き続き質疑応答を行う。

(質疑応答、情報交換)

参加者 専門家等をプロジェクト会議に招くことはできるのか。

大 山 可能である。なお、費用負担等については別途検討の必要がある。

参加者 遠方から来た人は桑名の食文化についての関心が高いと思う。はまぐり、麺、肉等、味も値段も手頃である。また、歴史ゾーンを設定するだけでなく歴史について広めていく幅広い運動が必要ではないか。商業施設についてもハードだけ新しくしても消費者を引き付けることはできない。商業者自身の努力が必要であると思っている。

参加者 11月中旬ぐらいの完成を目途にふるさと検定のテキストを作っている。このテキストが完成したらPRをして行きたい。自分の街を学ぶことで良い所、悪い所も見えてくると思われるので一人一人が街について考えるきっかけにして、まちづくりに役立てたい。

参加者 はまぐりの漁獲量はようやく回復して来ている。漁協では小学生対象にした勉強会などを行っており、交流施設を拠点にしてそのような活動を広めたいとの思いを持っている。はまぐりを一般の店頭より安価に提供することは難しい面もあるが機会を活かして広くPRして行きたいと考えている。

参加者 協議会が出来ただけで街が良くなるわけではない。ただ、制度としてあるものは上手く活用し、より安く、より良いものをつくるきっかけとするという考え方が必要なのではないか。5年という期限で区切られると今から検討しては遅いという面もあるが、法律や制度は見直されていくのが常であり、次のきっかけであると考えていることも一つである。常日頃より動いていないと前に進んでいかないとと思われる。

会議の終了に際し、株式会社まちづくり桑名 伊藤新吾代表取締役より閉会の挨拶を行う。

伊藤(新) 協議会、プロジェクト検討会議に対して、多くの方の参画を呼び掛けると共に民間側からの積極的な発言をお願いしたいと考えている。

以上で会議を終了。